

地元中小企業による 資源の有効利用の取組 ～食品残渣を利用したペットフード開発の挑戦～

(2025年3月17日(月) 播磨圏域ものづくりプラットフォームセミナーより)



有限会社播磨海洋牧場

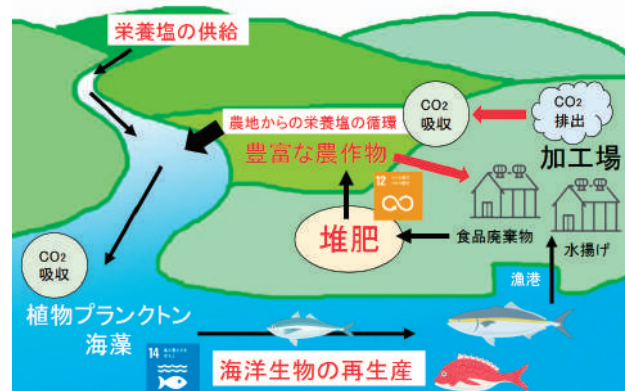
播磨海洋牧場の歩みと挑戦

まず、播磨海洋牧場がどんな会社かというと、最初は養殖業から始まりました。しかし、時代の変化とともに、漁師さんと一緒に漁業の6次産業化に取り組むようになりました。当初は国内での鮮魚販売を行っていましたが、次第

に難しくなり、加工品の開発や海外輸出にシフトしました。特に、冷凍品の開発を通じて海外市場に進出し、兵庫県のクリエイティブビジネスグランプリで知事賞を受賞するなど、評価をいただいています。

開発途上国での取組と国内への応用

次に、JICAの受託事業として開発途上国での水産業の6次産業化に取り組みました。現地では、漁村の所得向上や女性の社会進出を目指し、海洋産物と農作物を組み合わせたビジネスモデルを提案しました。この経験を通じて、国内でも同様の取り組みが必要だと感じました。特に、兵庫県では魚が取れなくなっている現状を踏まえ、水産加工品の廃棄物を利用して海洋の再生産を促進する取り組みを進めています。先月、姫路市より姫路創生SDGsアワードの感謝状をいただきました。右図は、水産食品廃棄物を堆肥化し農作物へ利用する可能性を見出し、カーボンニュートラルの実現と海洋資源の持続性に関するモデルです。



ペットフード開発への挑戦

ペットフード開発についてお話しします。水産加工時の残渣を利用して、栄養価の高いペットフードを開発することに挑戦しています。特に、発酵技術を活用することで、添加物を使わずに栄養価を高めることができると考えています。実際に、納豆菌や味噌を使った発酵処理を行い、猫の健康に良い影響を与えることが確認されました。例えば、肥満気味の猫に与えたところ、代謝の数値が改善され、健康状態が向上しました。

さらに、ペットフードの開発には姫路商工会議所やマエカワテイスト株式会社、安田動物病院などの協力を得ています。ペットフード工場の建設も進めており、デザインにはユーモアを取り入れた猫の顔を模した建物を建設しました。猫の属性を調べた結果、完全肉食動物であることがわかり、たんぱく質を豊富に含むペットフードの開発に力を入れています。



発酵技術を使ったペットフードは、栄養価が高く、猫の健康に良い影響を与えることが期待されています。例えば、納豆菌や味噌を使ったペットフードは、猫の健康状態を改善する効果が確認されています。

これからも、発酵技術を駆使して、新しい価値を提供するペットフードの開発を進めていきます。

